

旅の思い出

スキー仲間と楽しく

楽しかった

スキー合宿

堺東支部

寺崎 義成



が、スキー仲間と楽しく過ごす時が、私にとって最高の時間です。最近では極端に膝が痛くまともに歩くこともできませぬ。今年では果たして滑れるか、滑らなければ温泉旅行でも良いかと参加しました。恐る恐る滑りだすと、なんと滑れるではありませんか、大いに堪能した旅行になりました。

22年年末に長野県の北志賀高原「よませスキー場」に元職場の仲間8人でスキーに行きました。年末年始のスキーは、18歳の時から毎年欠かすことなく参加しています。八方尾根、柵池、五竜などにバスを借り切って行っていました。

退職して15年、後期高齢者になった今も誘って来ています。コロナ感染拡大で中止になった時もありました。

あと何年滑れるかわかりませんが、来シーズンもがんばります。

一昨年10月、対面の自転車と接触しそうになり、横断歩道で自転車ごと横転しました。

横断歩道で

自転車ごと横転

折とわかり、毎日ガーゼ交換と週一回のレントゲン撮影。支部の山本さん(書記長)にケガと交通

治療を受けてください」と励ましを受け、元気が戻り順調に回復。12月末、診察とリハビリが終了しました。

共済だより

ガン検診の予約に急ぎ、その時はあまり痛みを感じませんでした。が、医療センターで血のにじむ肘と左肩の痛みにびっくりしました。

整形外科で骨

災害共済のことを相談させていたと、すぐ担当者に連絡してくださる手続きをしました。

その時、「焦らず十分

これもひとえに皆様の手厚いご配慮と共済のおかげと心より感謝いたします。誠にありがとうございました。

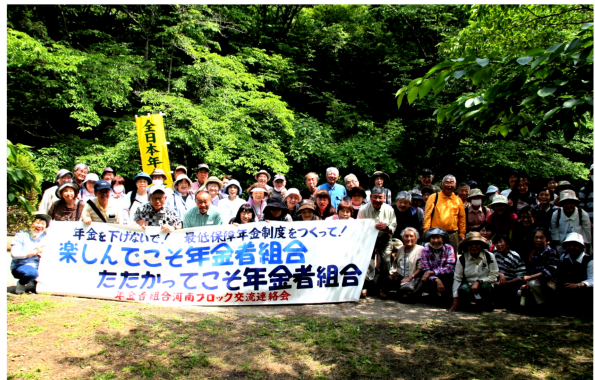
茨木支部

宮脇 芳美

サークル・行事紹介

「河南大集合」

太子河南支部



全員集合です

10回目の「河南大集合」を開催しました。

「河南大集合」は松原市から南の地域にある年金者組合8つの支部が、毎年、持ち回りで文化・行楽をしています。



楽しかった輪投げ

に持参の弁当で昼食を済ませ

せたのち、ゲームです。支部対抗の「輪投げ」をしました。トーナメント方式で得点を競いますが、各支部代表4名の応援に熱気が凄まじいほどでした。走ることもないゲームなので、誰でも参加出来ます。賞品は1位・2位・3位は2組でした。その次はお決まりのビンゴゲームです。「上

今年太子・河南支部が担当し、5月21日(日)に「近つ飛鳥・風土記の丘」で開催しました。それまでの雨模様も嘘

ゲーム終了後は希望者による「博物館」の見学です。見学者は32人、元の埋蔵文化財を見学して、古代のロマンに浸りました。担当府役員の江川さんの弁によると「河南大集合」は「いつも天気は晴れ」とのことです。楽しい1日でした。

書記長

高谷 一二

年金者ぶんげい

俳句

日本語のうしろから戦前がくる
住之江支部 三井 淳一

夏の午後猫が相手の警備員
高槻支部 内田 章

歩き出す君を導く新樹光
松原支部 大内 芳子

街中にジャズ踊ってる初夏の宵
高槻支部 埴淵 勝子

人住めぬ原発の町春の泥
吹田支部 太田美智代

憲法記念日平和の鐘の乱れ打ち
平野支部 甲斐 昭治

なにもかもできる気がする五月かな
富田林支部 見田 三郎

幼な児に原爆雲を教う声
堺北支部 山本美登莉

川柳

曲者は腹に一物手にみやげ
高槻支部 中野 弘通

核心を突かずばらまく少子策
堺堺支部 堀西 和子

オレオレの身近な被害次は俺
堺北支部 古賀 光政

異次元の軍拡止めて年金に
寝屋川支部 寺中 信雄

物価高おやつとおかず減ってきた
和泉支部 本山 高行

新しい戦前産めよ増やせよか
東住吉支部 伊藤 一正

身を切られたまた身を切られたまらんわ
太子河南支部 浅田 敏

(文芸欄は編集部選。投稿や各支部発行の
機関紙に掲載された作品を紹介しています)

短歌

博打場を観光拠点と首相言う浪速の情緒貶めるの
か 藤井寺支部 宇留間英一郎

春がすみたなびく山と見けれども黄砂来たりとお
ののくわれは 箕面支部 和田 稔

山藤の若葉の木々にからまりて車走らす丹波への
道 高石支部 大西 博美

市役所の手続きの時尋ねらる念押す如くにマイナ
ンバーを 高槻支部 岩本 廣志

願い集め宝の議席守らんと党派を越えて支援の輪
広く 吹田支部 阿部 誠行

テレビからドイツ原発最後の日この目で見たい日
本のその日 堺堺支部 飛谷 康子

ゴミ置き場に本を捨てしは誰ぞ読者の思いもあり
なんものを 堺北支部 大西 孝子

家族葬折り込みピラの様々に迷って見ている西方
浄土行 枚方支部 庄野 進夫

思い出の映画・号泣した映画・もういちど観たい映画



カティンの森

次大戦中「モスクワ近郊
カティンの森でポーラン
ド人2000人余りの虐
殺遺体を発見」と、ドイ
ツ軍が発表した。当時ポ
ランドはソ連とドイツ両
国から攻められていた。
これはドイツ軍がソ連に
罪をかぶせるためにやつ
たことだと、ドイツ軍は
ソ連軍の仕業だと、互い
になすり合いをし、真相

は長く伏せられた。(50
年後の1990年ソ連軍
の犯行であることを認め
た)

この事件をベースに、
夫(少将)に手編みのセー
ターを持たせて戦争に送
り出した主人公が、ずつ
と無事を祈りながら帰り
を待ち続ける。やつと戦
争が終わって夫を駅に迎
えに…。ところが夫は戦
場で、妻の編んでくれた
セーターを風邪を引いた
友に着せたために、友と

間違えられて、虐殺され
てカティンの森に埋めら
れてしまっていた。とい
うストーリー。

もう20年も前に観た映
画なのに、今も忘れるこ
とができない映画である。
監督のアンジェイ・ワイ
ダ氏自身も父親が「カティ
ンの森」の被害者だそう
で、この虐殺事件をこの
まま埋もれさせないとい
う強い思いが映画作りへ
向かわせたのだろう。戦
闘シーンが一度もないこ

の映画、主人公(妻)の
切ない思いがひしひしと
胸にのしかかる。現在ロ
シアのウクライナへの侵
略が長引く中、一日も早
くこの戦争が終わる事を
願わずにはいられない。
私は戦後生まれだが、
この映画が伝える「決し
て戦争はしてはならない」
という思いをいっそう強
くしている。

(2007年製作 ポー
ランド映画)
豊中支部 奥村 登志美